



サンビोटニック農業で大豊作！

たまねぎ(玉葱) 栽培基準



◆ 苗床 (育苗) ◆

ステージ	内容	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
播種前	(ポット育苗) 培土改良	鈴成(粉末)	培土重量に対して 2~3%	培土と混和	普段から強い苗ができてくれない時は、培土の改良をお勧めします。鈴成(粉末)を、培土重量に対して、2~3%重量混和します。混和後、すぐに播種できます。入れすぎると水はけを悪くする場合がありますため、3%以下とします。
	(苗床育苗) 土づくり 元肥	完熟堆肥 有機石灰 菌力アップ	2~3トン 100~200kg 5~10リットル	全面散布 土壌混和	本圃「土づくり」を参照 薬剤で土壌消毒を行う場合は、ガス抜き後3日程度空けて、菌力アップを散布します。太陽熱消毒や還元消毒を行う場合は、被覆前に菌力アップ10Lを希釈して散布し、処理後にも菌力アップ5~10Lを灌水します。
		有機百倍 鈴成 (硫酸マグネシウム)	5~10袋/10a 5~10袋/10a 10~20kg/10a)	全面施肥	地力や時期等に応じて、施肥量を調節します。暖かい時期の育苗では少なめ、寒い時期は多めに施用します。必要に応じて硫酸苦土肥料を施用します。
播種 ~ 育苗期	発芽促進 生長促進 発根促進 病害抵抗性	菌力アップ	(ポット育苗) 500~800倍 (苗床育苗) 200倍	播種時から1週間おきに頭上灌水、または葉面散布	セルトレー、チェーンポットなど培土が少ない育苗方式の場合、菌力アップの希釈倍数は500~800倍とします。根張りや苗立枯病などの病害抵抗性の向上を目的とします。 糖力アップやコーソゴールド、市販の液体肥料、または菌根菌資材などとの混用が可能です。発根が促進されると、肥料の吸収が良くなるので、肥料切れには注意してください。
	生長促進 発根促進 病害・乾燥耐性	純正木酢液、 またはイーオス タスケルブ！	500~1000倍 3000倍	1週間おきに頭上灌水、または葉面散布	病害が出やすい時期や、乾燥・高温の場合におすすめ。液肥、農薬等と混用可能です。葉面散布では、展着剤を加用してください。ただし酸性が強いので菌力アップとは別で実施します。べと病、白色疫病、苗立枯病などの病気が多い場合は、本格にがり1000倍+本気Ca(マジカル)1000~2000倍希釈を加用します。

◆ 本圃 ◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
10月	土づくり	完熟堆肥	1~2トン	土壌混和	土壌pHは事前に確認し、6.5前後を目標に調整します。 堆肥等は、最低でも1か月前には土壌混和します。五穀堆肥やパーク堆肥など植物質が多くC/N比(窒素炭素率)が15~25程度の方が望ましいです。水はけの悪い圃場では、もみ殻も500~1000kg程度施用することをおすすめします。病害の多い圃場では、窒素分の多い豚糞堆肥や鶏糞堆肥の使用を控えるか、使用する場合は500kg以下とします。 堆肥散布後に菌力アップを散布し耕耘します。その後、時間があれば2~3週間後に再度菌力アップを散布し、耕耘します。前作が緑肥栽培や稲作の場合は、すき込み前に菌力アップを散布し、すき込みます。 菌力アップの施用量は通常5Lですが、前作にて土壌病害が出た場合や、連作障害が出やすい場合は10Lとします。
		有機石灰または転炉スラグ肥料など	100~200kg	土壌混和	
菌力アップ		5~10リットル	全面散布		
	元肥	有機百倍、または マッスルモンスター 鈴成 (硫酸マグネシウム)	(露地) (マルチ) 7~10袋 15袋 10袋 10袋 10kg 10kg	土壌混和	定植2週間前までに土壌混和します。 追肥ができない作型(マルチ)では、遅効きのマッスルモンスターの方が後半まで効くのでおすすめです。
11~12月	定植	菌力アップ 糖力アップ マジ鉄	5リットル 5kg 100g	灌水(水1トン) 5~7日おきに3~4回以上	菌力アップ、糖力アップの継続的灌水で、発根が良い状態を維持し初期生育を促進します。また病原菌の繁殖を抑える微生物叢(相)を構築します。収量に最も影響する作業の一つですのでぜひ実施してください。 乗用管理機等で散布する場合は、水300リットルに対して菌力アップ5L、特濃糖力アップ1kgを混和し、雨前に散布します。

◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
1～3月	追肥	有機百倍 (硫酸加里肥料)	(露地) 2～3袋×3回 5～8kg×3回	20～30日おきに 株元散布	露地では、有機百倍は、1月から20日～30日おきに有機百倍を追肥します。堆肥等の施用量が少なかった場合や砂質土壌の場合、雨が多い場合は、加里が不足する場合がありますので、硫酸加里肥料を5kg程度加えます。 病害対策のため追肥は、できるだけ早めに終了します。早生・中生は4月上旬まで、晩生は3月20日までが原則です。成長が十分な場合、首が太い場合は、追肥は減量または控えます。 病害を予防するため、寒波や暴風の後は、銅剤などの殺菌剤を散布する。べと病等の罹病株は、早めに発見し、抜き取り処分します。
	生長促進	タスケルプ!	2000～3000倍	葉面散布 2～3週間おき	葉の展開スピードや葉の厚み、葉色が向上し、光合成効率も高まります。また耐病性も高まります。葉の枚数、長さが不十分なときは、尿素500倍も混用します。 展着剤を加用してください。農薬との混用可です。
3～6月	生長促進 収量アップ	菌力アップ 糖力アップ マジ鉄	5リットル 2kg 100g	灌水(水1トン) 10日おき2～3回	地上部生育が足りないときは、左記灌水作業を実施します。肥大期の根の活力を維持します。 本気Ca(マジカル)1kgも追加すると、品質や耐病性も向上します。
	病害対策 貯蔵腐敗対策	本格にがり 本気Ca(マジカル) 純正木酢液	500～1000倍 1000～2000倍 500倍	葉面散布 1週間おき	べと病、軟腐病、白色疫病、腐敗病などの茎葉病害が発生しやすい時期(3～5月)には、展着剤を加用し左記葉面散布を実施します。葉の細胞壁、バリア機能を強化し、病害への抵抗性を高めます。 また、収穫前には1～2回実施すると、貯蔵性が向上し、貯蔵病害、貯蔵腐敗対策となります。各1Lずつ500～1000倍希釈で灌水も可です。農薬との混用可です。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水します。

※秋まき体系です。地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※できれば土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。

※本圃10aあたりに必要な苗床の面積は、約60㎡です。上記の苗床の基準は、苗床10aあたりですから、×60/1000して計算してください。